重点８　就学前（幼稚園）教育の充実　／　１　指導方法の工夫改善

ね　ら　い

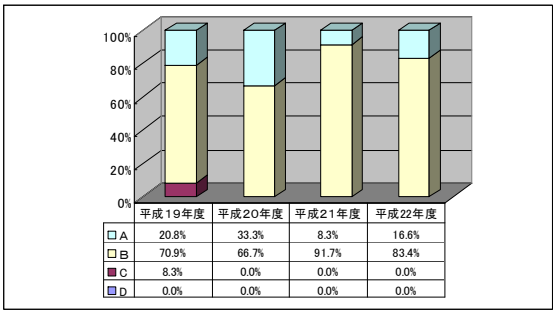
幼稚園では，幼児の欲求や自発性，好奇心などを重視した遊びや体験を通した総合的な指導によって，人間形成の基礎となる豊かな心情や想像力，ものごとに自分からかかわろうとする意欲，健全な生活を営むために必要な態度の基礎を培うことをねらいとしています。

そのために，一人一人の幼児の特性に応じた指導をきめ細かく進めるとともに，道徳性の芽生えを培う活動や身近な人・環境とのかかわりを重視した教育実践のダイナミックな展開に努めています。

現状と課題

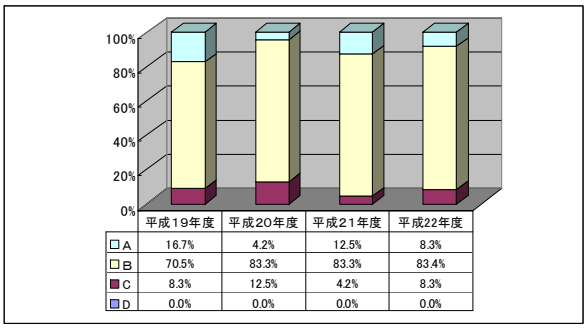
○　平成 22 年度の市内教職員のアンケート結果(24 園)

Ｑ１：一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったか。



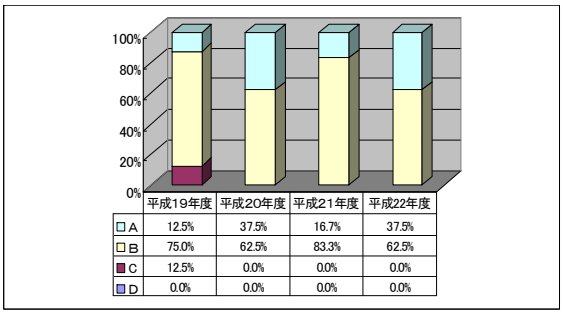
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
A	20.8%	33.3%	8.3%	16.6%
B	70.9%	66.7%	91.7%	83.4%
C	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ｑ２：幼児期にふさわしい生活を展開できる環境構成の工夫を行ったか。



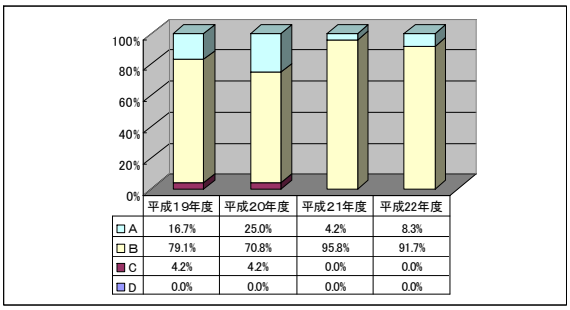
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
A	16.7%	4.2%	12.5%	8.3%
B	70.5%	83.3%	83.3%	83.4%
C	8.3%	12.5%	4.2%	8.3%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ｑ３：身近な人や環境とのかかわりを重視した保育を行ったか。



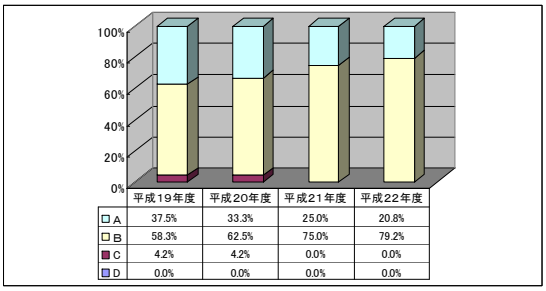
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
A	12.5%	37.5%	16.7%	37.5%
B	75.0%	62.5%	83.3%	62.5%
C	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ｑ４：道徳性の芽生えを培うための指導を行ったか。



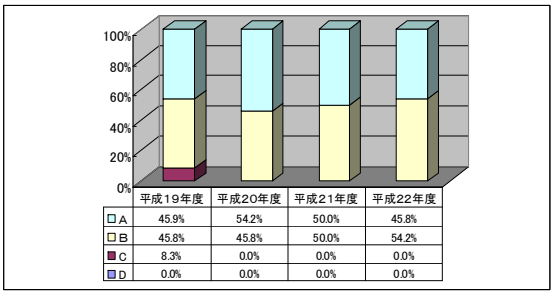
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
A	16.7%	25.0%	4.2%	8.3%
B	79.1%	70.8%	95.8%	91.7%
C	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ｑ５：基本的生活習慣，社会生活上のルールなどの定着を図ったか。



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
A	37.5%	33.3%	25.0%	20.8%
B	58.3%	62.5%	75.0%	79.2%
C	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ｑ６：健康・体力向上のための指導を行ったか。



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
A	45.9%	54.2%	50.0%	45.8%
B	45.8%	45.8%	50.0%	54.2%
C	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【「Ａ」：十分　「Ｂ」：おおむね十分　「Ｃ」：やや不十分　「Ｄ」：不十分】

○　「十分・おおむね十分」の回答が 100%に到達しているもの

Ｑ１：一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったかについては，指導方法の工夫や改善に向けた取組が積極的に進められているといえます。

Ｑ３：身近な人や環境とのかかわりを重視した教育実践については，共に生きる力の育成にむけ，同年齢・異年齢・地域の人など身近な人とのかかわりに重点をおいた実践や，飼育栽培・園外保育など自然にふれる機会を積極的に取り入れるなどの工夫をしてきた成果と言えます。

Ｑ４：道徳性の芽生えを培うための指導については，道徳性の指導の重要さを認識し，実践に努めていることがわかります。

Ｑ５：基本的な生活習慣，社会生活上のルールについては，日常における指導の徹底と，保護者と連携した取組が進められ，定着してきていることがわかります。

Ｑ６：健康・体力向上のための指導を行ったかについては，その重要性に注目し，取組が一層強化された成果であることがわかります。

○　「やや不十分」という回答のあるもの

Ｑ２：環境構成については，やや不十分という園が８．３％となっており，必要性は十分認識しつつも，幼児の学びを充実するために，さらに努力する必要があります。目標達成に対する考え方が園により差があることも考えられます。

今後の方向性

○　一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫や環境構成の工夫によって，園での活動が幼児の発達にとって，より一層意味のあるものにしていくことが必要です。全職員が幼児の成長のために共通認識し，具体的な課題をもって教育実践に取り組みます。

○　健康で安全な生活習慣や態度の育成をめざし，戸外遊びや運動遊びの充実など，心身が共にたくましく育つよう取組を継続的に進めます。

○　教師の専門性を一層高め，遊びの中で子ども同士がかかわりあう機会を通じて，集団のルール等を学んだり，集団の中で個を発揮することで，子どもが遊びの充実感を味わうことができるよう取り組みます。

○　幼稚園教育の更なる充実とともに，保育園との連携教育や小学校との連携を深めて，段差のない教育の取組を進めます。

その他の主な取り組み状況

○　幼稚園での特別支援教育の取組について

特別支援教育についての取組では，各園での自己評価において，十分・おおむね十分（できた）との回答が 100%に到達しています。教師一人一人が資質向上を目指した研修を積み，園内研修も充実してきました。また，保育園とともに「特別支援保育研修」で就学前教育における特別支援教育の在り方について，研修を深めています。

○　幼稚園での食育活動の取組について

健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切です。このことを踏まえ，幼児の食生活の実情に配慮し，和やかな雰囲気の中でみんなと同じものを食べる喜びや楽しさを味わったり，様々な食べ物への興味・関心を持ったりすることで，進んで食べようとする気持ちが育つようにしています。

平成２０年度から，家庭弁当を基本とした週１回デリバリー方式の給食が導入されました。幼児の給食は，安心・安全で栄養バランスのとれたもので，家庭の食育支援にもつながっています。教師は，衛生管理・給食への研鑽に励み，食育の充実を図っています。